

1. 委嘱状交付	
2. 市長あいさつ	
役員紹介	
3. 役員選出	
会長：柳田委員	
副会長：脇委員	
4. 経緯報告等	
5. 討議	
・市民委員の意見	
委員	<p>ときわ湖全体ではなく、白鳥だけのことを考えると、非常に難しく、揺れ動いている。</p> <p>ときわ湖を考える市民委員会があるということで、白鳥やときわ公園の今後を話していく中で、できることならば少数でも復活してほしいというのが希望である。</p> <p>また、冬場だけ小学校のプールで白鳥を飼ってはどうかという意見もまわりにあがっていた。小学校で白鳥を飼ってもらおうということで、清掃の問題などあるが、情操教育にも役立つのではないかと。恩田のプールも空いているので、アイデアとしてそういう話もある。</p> <p>少数でも良いので、白鳥を泳がせてみると、シンボルの看板を変えなくてよいし、白鳥をシンボルとして使っている企業もある。20羽、30羽ならば、管理ができるのではないかと。</p>
委員	<p>ベストな方法が仲間で考えてもまだ思いついていない。</p> <p>ときわ湖に白鳥がいることが小さいころから当然になっているため、必ず白鳥が戻ってきてほしいという願いがある。しかし、同じような殺処分を繰り返すならば、我慢してでも白鳥を戻したくないという思いもある。</p> <p>白鳥もペリカンのように分離飼育し、飼育が可能であれば、白鳥を戻してほしい。</p> <p>ときわ湖を考える市民委員会は、鳥類の飼育方法を検討する会ではあるが、慰霊碑を作りたいと思っている。ときわ湖を考える市民委員会が率先して作ってほしい。</p>
委員	<p>分離処分ができなかったのかということ、今後、白鳥を湖に戻す場合に分離飼育という方法をとってもらえるのではないかと考えている。</p> <p>ときわ湖のそばに慰霊碑がほしい。</p> <p>売店の活性化についても検討してほしい。</p>
委員	<p>高病原性鳥インフルエンザは二度と起こってはいけないことが基本である。</p> <p>ときわ公園といえば、白鳥とペリカンで有名になったという何十年もの歴史があるため、白鳥を復活させたい。</p> <p>1年間の季節の中で、危険な時期と安全な時期があると思</p>

	<p>う。飼育方法を検討し、危険な季節には屋内管理をするなど必要ではないか。</p> <p>白鳥が復活した場合にも今までのような数は飼育することができないため、少数の白鳥を復活させてほしい。</p>
委員	<p>白鳥の慰霊祭で子どもが「何もなくなっちゃった」と言っていた。子どもにそのような思いをさせてはいけない。1羽、つがいからでも、白鳥を取り戻すべきである。</p> <p>リスクを無くすことは完全には不可能だが、リスクを軽減することは可能。今後の管理方法の検討や、医学の発展によりワクチンの開発など、未来に目を向けていくべきである。</p> <p>慰霊碑は、市民の手で作っていきたいと考える。市民からお金を集めてでも慰霊碑を作るべきである。</p> <p>私の意見としては、白鳥を取り戻したいというそれだけである。</p>
委員	<p>皆さんとは違う意見にはなるが、白鳥が宇部にやってきて50年、緑と花と彫刻のまちという原点に戻るのもよいのではないか。50年前は、あつて当たり前前の白鳥がなくても美しいときわ湖だった。</p> <p>生まれてすぐに切羽することが当たり前だと思っていたが、自然体のまま、環境整備に力をいれることもひとつの考え方ではないか。</p> <p>野鳥が多くやってくるため、野鳥を観察するという人工的なものではない環境もよいのではないか。</p> <p>慰霊碑を作ることは賛成である。</p>
<p>・関係団体の委員の意見</p>	
委員	<p>小さいころから宇部に住んでおり、白鳥を見て育った人間からすると、とても寂しい。白鳥の声が聴けないことが寂しいと感じる。</p> <p>1羽でも2羽でも戻ってきてほしいと思う。</p> <p>今後については、専門家の方を含め考えていけばよい。</p>
委員	<p>宇部市に来て、ときわ公園の白鳥はとても印象深かった。</p> <p>40年以上住んでいるが、ときわ公園に白鳥がいないことがとても寂しい。1羽でも2羽でもよいから白鳥がいた方がよい。つがいでもよいから、ときわ公園に白鳥が必要ではないか。</p>
委員	<p>昭和32年に宇部市の黒い炭鉱のイメージを一新するために50羽の白鳥がやってきた。</p> <p>ときわ公園の白鳥はときわ公園への思いがふんだんに含まれている。</p> <p>以前は、ときわ公園で白鳥を繁殖させ、全国の動物園に分譲させていた。水の汚染の問題もあり、現在では分譲などは行っていないが、繁殖させる技術も持っている。</p>

	<p>そのような飼育方法を行ってきた中で、今回のインフルエンザが発生し、その他の感染症も含め、以前のような形で飼育することが大変難しくなっている。</p> <p>どこの動物園もときわ公園と同じリスクを抱えて飼育を行っている。</p> <p>殺処分ということ自体が、特に子供にとってマイナスになるのではないか。会の方針としても、個人的な意見としても殺処分という同じようなことを繰り返すべきではない。</p> <p>殺処분을しなくてよいとなれば、別である。専門家の先生の意見が聞きたい。</p> <p>殺処分という重い決断を市が判断し、自分自身も苦しい思いをした。その思いを汲み取り、殺処分しなければいけないのかを含めて、先生の意見を聞きたい。</p>
委員	<p>データを十分に把握したい。</p> <p>野鳥が鳥インフルエンザにかかるのが全国に何か所あるのか、確率はどのぐらいなのか。近年、インフルエンザは増える時代になると聞いている。どのぐらいのペースで確率があがっていくのか、データを知りたい。</p> <p>水の浄化についても重要であるため、白鳥と併せて考えてもらいたい。</p> <p>場合によっては、少しずつ白鳥を増やすなど考えるが、急激に変化し、大半はインフルエンザにかかってしまうということであれば、また変わってくる。どうなるのか全く分からない。</p>
委員	<p>いろいろな思いはあるが、宇部市民は白鳥を殺されたという表現をずっとしている。</p> <p>苦渋の決断だったとはいえ、あまりにも早い決断で、あまりにも大量だったのではないか。</p> <p>今後、殺処分という同じことを繰り返すことだけは避けなければならない。</p> <p>技術的なことをお聞きしたい。リスクがあった場合に対処できないのであれば、白鳥を再び飼育することは難しいと考える。</p> <p>少数の飼育について、10羽や20羽飼育し、以前のときわ湖であるということはある程度あり得ないことである。</p> <p>ときわ湖にたくさんいてこそ、ときわ湖の白鳥だ。</p> <p>少数の白鳥を飼育し、殺処分という同じ状況になった場合に、300羽は悪くて、10羽は良いという話にはならない。</p> <p>殺処分という形をとらなくてよい方法があるのならば、いろいろな方法を考えてもらいたい。</p> <p>どちらの方がよいかという判断はまだついていない。</p>
委員	<p>ときわ湖の白鳥は、飼育員さんたちの研究や飼育の成果であ</p>

	<p>る。</p> <p>宇部市のばいじんの黒いイメージから一掃するために白い鳥がやってきた。その白鳥をもう一度という思いは強い。しかし、飼育に携われた方の気持ちを思うと殺処分は二度とあってはならない。</p> <p>冬場だけでも分離飼育する方法があれば飼いたいと思う。宇部市から離れている宇部市出身の同級生も白鳥がいないときわ湖は考えられないと強く言う人もいる。</p> <p>一般の宇部市民にとっては、白鳥というのはときわ湖から切っても切れないものである。</p> <p>殺処分しないという確定が取れば、飼育していきたい。</p>
委員	<p>観光という切り口から見ると、白鳥は宇部市にはなくてはならない最大の観光資源であったことに間違いはない。</p> <p>個人的にも小さいころから白鳥を見ているため、愛着はある。</p> <p>インフルエンザが蔓延している今、再度白鳥を復活させてよいのかという思いもある。殺処分をすることになれば、やめた方がよいと思う。</p> <p>確実に白鳥を守ることができる環境が整ったら、白鳥を飼育してもよいのではないか。</p> <p>1羽でも、という気持ちはとてもよく分かるが、観光からいうと、50羽ぐらいの大きなレベルにならないと観光にはならない。</p> <p>震災について、現状回復させるのか、新しいものを作り変えるのかという議論があるが、ときわ公園にも同じことが言える。</p> <p>白鳥も1つの切り口ではあるが、環境、文化、芸術、自然などのキーワードを切り口にすることもできる。環境が整ったときに白鳥を復活させるという絵を描いて、考えていくのもひとつではないか。</p>
委員	<p>白鳥については、特別な思いはあるが、ペリカンについても大事にしたいと思っている。</p>
委員	<p>ペリカンについても重要なことであるため、併せて考えていきたい。専門家の先生の意見やデータなどをふまえ、先生の見地からときわ公園をどのようにしていけばよいか参考になるようなお話を聞かせてほしい。</p>
<p>・学識経験者の委員の意見</p>	
委員	<p>鳥インフルエンザは人のインフルエンザと違い、糞尿や水から感染することがある。糞尿が流れた水によって感染する。インフルエンザを持った野鳥が湖水にはいると感染する。冬場の水は冷たいため、インフルエンザのウイルスが生きるのにちょうどよく、かなり生き残っている。</p>

	<p>今年是全国でかなりの野鳥が死んだ。その理由はこれまでと感染ルートが違うといわれている。今までになかった樺太島にインフルエンザがいつてしまい、今後も樺太島から毎年インフルエンザに感染して帰ってくるのではないかと危惧している。</p> <p>今回の宇部市の迅速な対応は、素晴らしい対応だった。迅速な判断がなければ被害が拡大していた可能性もある。殺処分について、いろいろな意見はあるが、苦渋な決断であり、それが一番だと信じてやっている。飼育鳥からインフルエンザを広げるわけにはいかない。</p> <p>今後、野鳥がときわ公園に来るうちは、飼育鳥は冬場に湖に野鳥といっしょにいれる状況は避けた方がよい。</p> <p>現状では、またインフルエンザを持った野鳥が来ることが考えられる。</p> <p>野鳥が持ってくることは防ぎようがない。意見にもあったように、今後、野鳥が来てくれるような湖を目指してもよいのではないか。</p> <p>飼育動物は、今冬は様子を見た方がよい。</p>
委員	<p>ウイルスは見えないものであり、どんどん拡散していく。ときわ公園の10キロ圏内に40万羽のにわとりが飼われている。</p> <p>可能性として、この冬も渡り鳥がウイルスを運んでくると考えている。</p> <p>飼育をする場合にも徹底した管理が重要な要素になってくる。今冬から飼育することは危険性が高く、野鳥には触れさせない対応が必ず必要となる。</p> <p>養鶏農家で発生した場合は、莫大な被害になる。養鶏農家うつっていると、昨年だけで180万羽処分されているため、そのくらいの被害になることを分かってもらいたい。</p> <p>養鶏農家への感染の危険性を認識してほしい。</p>
・その他意見	
委員	ときわ湖の水質について、水質がどのような状態になった時に危険性が大きくなるのか。水質を見て分かるのか。
委員	水温が低いと危険である。
委員	たとえば、10度や15度が危険であるのか。
委員	具体的なデータは持っていないが、水温が低いとウイルスが長生きすると言われている。
委員	どういう菌が発生したときにインフルエンザになりやすくなるかは分かるのか。
委員	ウイルスは数個で感染するため、大量の水から数個のウイルスを見つけることは不可能に近い。
委員	対策はあるのか。浄化する方法はあるのか。

委員	<p>費用と量的なことを考慮すれば難しいが、技術が開発されていけば可能になることがあるかもしれない。</p> <p>インフルエンザを取り除く方法は現在は聞いていない。</p>
委員	<p>インフルエンザについて、人間のインフルエンザのように免疫性を持っていないものがかかりやすいなどということはあるのか。</p> <p>鳥の年齢は難しいが、インフルエンザが発生した鳥の年齢を調査すれば、参考になるのではないか。</p> <p>今後の対策に活かしてもらいたい。</p>
委員	<p>水禽類のインフルエンザは腸管にいる。</p> <p>白鳥に関してのデータは今はないが、白鳥も水禽類であるため、ウイルスは腸管にいると考えられる。</p> <p>抵抗性があるということは腸管にウイルスを持っていることが考えられる。</p> <p>今回の場合は、腸管から水を介して、次々と広がっており、ほかの鳥も感染している可能性もかなり高い。インフルエンザはものすごい勢いで広がっていくため、迅速な対応が被害を防ぐ一番の対応であった。</p> <p>今後、防ぐ方法があれば検討していかなければならないが、現在では迅速な対応が一番よい対応であり、来年もそのような判断だと考える。</p> <p>抵抗性についても、鳥の種類で感受性が違うため、同じように考えられるかは分からないが、まだよい案、提言はない。</p>
委員	<p>水鳥は抵抗性が強いと言われている。抵抗性が強いがゆえに、元気なまま体内にウイルスを保持して渡ってくる。</p> <p>それがニワトリにうつると、100%死んでしまう。白鳥は元気なものもあるかもしれないが、養鶏にウイルスがうつってしまうと30万羽が死んでしまう。</p> <p>このようなことから、早急な処置が必要となり、発症はしていないが、処分するという判断になる。</p>
委員	<p>白鳥とペリカンと同じ湖におり、なぜペリカンは1匹も発症していないのか。なぜ白鳥だけなのか。</p>
委員 (補足説明)	<p>インフルエンザが発生したとき、いろいろな問題があったと思うが、早急に処分とした。</p> <p>そのままにしておくと、広がって行って、次々に白鳥が死んでいくという悲惨な状況があったと確信している。</p> <p>ペリカンの話について、えさの与え方の違いがあるのではないか。ペリカンは白鳥のように水辺にえさをまくのではなく、遠くから魚を投げて与えているため、そういう部分で違いがある。また、感受性の違いもあると思っている。</p> <p>管理についても、12月の時点で、ペリカン、白鳥、動物園内の鳥について、分離してもらいたいとお願いをしている中</p>

	で、白鳥のみの処分となった。
	・市民意見の募集について
	8月1日（月）～8月15日（月）まで市民意見の募集を行う。
	・第2回市民委員会について
	8月24日（水）18：30～ 湖水ホール大展示ホール
	市民の方を交えて開催したい。
	・その他
	専門家の委員に事前に調べてもらいたいことなどあれば、1週間以内に事務局に伝えること。